

令和 5 年 度

幼稚園教員資格認定試験

教科及び教職に関する科目(Ⅱ)

注 意 事 項

受験者は、下記の注意事項に従うこと。それ以外の注意事項は全て試験監督者の指示によること。

1. 試験監督者の「始め。」の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
2. 氏名、受験番号を「令和5年度 幼稚園教員資格認定試験 解答カード」(以下、「解答カード」という。)の指定された欄に必ず記入してください。
3. 受験番号をマークしてください。
4. 「解答カード」の中で特に受験番号の欄の記入及びマークを間違えると失格になるので注意してください。
5. 解答は、全て「解答カード」の解答欄にマークで記入してください。問題冊子に答えを書いても無効です。
6. マークは必ず黒鉛筆(HB)を使用して、枠内にきちんと記入してください。
訂正する時は、プラスチック製消しゴムで完全に消してください。また、「解答カード」を曲げたり折ったりしてはいけません。
「解答カード」が汚れた場合や折れてしまった場合は、試験監督者に「解答カード」の交換を申し出てください。
7. この試験の解答時間は、「始め。」の合図があってから 50分です。
8. 試験が終わるまで退室できません。 [マーク例]
9. 試験監督者の「やめ。」の合図があったら、直ちにやめてください。 (よい例) ●
10. 下書きには問題冊子の余白を使用してください。
11. 試験終了後、問題冊子を必ず持ち帰ってください。 (悪い例) ⊙ ⊗ ⊕ ⊖

問 1 次の各文は、「幼稚園教育要領」(平成 29 年文部科学省告示第 62 号)の「第 1 章 総則 第 1 幼稚園教育の基本」の一部である。文中の空欄 ① ~ ③ に当てはまる語句の組合せとして正しいものを、下のア~エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- 1 幼児は安定した情緒の下で自己を十分に発揮することにより発達に必要な ① を得ていくものであることを考慮して、幼児の主体的な活動を促し、幼児期にふさわしい生活が展開されるようにすること。
- 2 幼児の自発的な活動としての遊びは、② 発達の基礎を培う重要な学習であることを考慮して、③ を中心として第 2 章に示すねらいが総合的に達成されるようにすること。

	①	②	③
ア	経験	心身の調和のとれた	環境を通しての指導
イ	体験	心身の調和のとれた	遊びを通しての指導
ウ	経験	身体の	遊びを通しての指導
エ	体験	身体の	環境を通しての指導

問 2 「幼稚園教育要領」(平成 29 年文部科学省告示第 62 号)の「第 1 章 総則 第 2 幼稚園教育において育みたい資質・能力及び『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』」に示された内容の一部として適切でないものを、次のア~エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 健康な心と体

幼稚園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

イ 協同性

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

ウ 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などを覚える経験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの達成感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

エ 言葉による伝え合い

先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

問 3 次の①～④の文は、「幼稚園教育要領」(平成 29 年文部科学省告示第 62 号)の「第 2 章 ねらい及び内容 人間関係」に示された内容の一部である。各文の正誤(○×)の組合せとして正しいものを、下の解答群ア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

- ① 自分で考え、自分で行動する。
- ② 友達とたくさん関わりながら喜びや悲しみを共感し合う。
- ③ 友達と楽しく生活する中できまりの大切さに気づき、守ろうとする。
- ④ 高齢者をはじめ身近な人などの自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもつ。

[解答群]

	①	②	③	④
ア	○	○	×	×
イ	×	○	×	○
ウ	×	×	○	○
エ	○	×	○	×

問 4 「幼稚園教育要領」(平成 29 年文部科学省告示第 62 号)の「第 2 章 ねらい及び内容 言葉 3 内容の取扱い」に示された内容の一部として適切でないものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 言葉は、身近な人に親しみをもって接し、自分の感情や意志などを伝え、それに相手が応答し、その言葉を聞くことを通して次第に獲得されていくものであることを考慮して、幼児が教師や他の幼児と関わることにより心を動かされるような体験をし、言葉を交わす喜びを味わえるようにすること。

イ 幼児が自分の思いを言葉で伝えるとともに、教師や他の幼児などの話を興味をもって注意して聞くことを通して次第に話を理解するようになっていき、言葉による伝え合いができるようにすること。

ウ 幼児が生活の中で、言葉の響きやリズム、新しい言葉や表現などに触れ、これらを使う楽しさを味わえるようにすること。その際、絵本や物語に親しんだり、言葉遊びなどをしたりすることを通して、言葉が豊かになるようにすること。

エ 幼児が日常生活の中で、文字などを使いながら知ったことや考えたことを伝える喜びや楽しさを味わい、文字に対する興味や関心をもつようにすること。

問 5 次の文は、「幼稚園教育要領」(平成 29 年文部科学省告示第 62 号)の「第 3 章 教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動などの留意事項」の一部である。文中の空欄 ① ～ ③ に当てはまる語句の組合せとして正しいものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

地域の実態や ① とともに幼児の ② を踏まえつつ、例えば実施日数や時間などについて、③ に配慮すること。

	①	②	③
ア	保護者の事情	生活のリズム	弾力的な運用
イ	保護者の予定	生活のサイクル	計画的な運用
ウ	保護者の予定	生活のリズム	計画的な運用
エ	保護者の事情	生活のサイクル	弾力的な運用

問 6 次の文章は、『幼稚園教育要領解説』(平成 30 年 2 月文部科学省)の「第 1 章 総説 第 3 節 教育課程の役割と編成等 5 小学校教育との接続に当たっての留意事項」の一部である。文章中の空欄 ① ～ ③ に当てはまる語句の組合せとして正しいものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

小学校においても、幼稚園から小学校への移行を円滑にすることが求められる。低学年は、① を生かしながら教科等の学びにつながる時期であり、特に、入学当初においては、② を編成し、その中で、③ を中心に合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定なども行われている。

このように、幼稚園と小学校がそれぞれ指導方法を工夫し、幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続が図られることが大切である。

	①	②	③
ア	幼児期の教育を通じて身に付けたこと	スタートカリキュラム	総合的な学習
イ	幼児期の教育を通じて経験したこと	ファーストカリキュラム	総合的な学習
ウ	幼児期の教育を通じて経験したこと	ファーストカリキュラム	生活科
エ	幼児期の教育を通じて身に付けたこと	スタートカリキュラム	生活科

問 7 次の文章は、『幼稚園教育要領解説』(平成 30 年 2 月文部科学省)の「第 3 章 教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動などの留意事項 2 子育ての支援」の一部である。文章中の空欄 ① ～ ③ に当てはまる語句の組合せとして正しいものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

国や地方公共団体は、児童虐待の予防や虐待を受けた子供の保護などをするため、関係機関の連携体制を整備する ① とともに、幼稚園や教師も国や地方公共団体の施策への ② に努めることとしている。このような関係機関の連携のための仕組みとしては、児童福祉法の規定に基づき、各市町村などにおける ③ (子どもを守る地域ネットワーク)の整備が進んでおり、幼稚園においても日頃からこの協議会を通じて連携体制を構築し、個別の虐待ケースへの対応についてもこの協議会における連携の下、進めていくことが求められる。

- | | ① | ② | ③ |
|---|-------|----|----------------|
| ア | 責務を負う | 連携 | 要保護児童虐待対策地域協議会 |
| イ | 責務を負う | 協力 | 要保護児童対策地域協議会 |
| ウ | 役割を担う | 連携 | 要保護児童対策地域協議会 |
| エ | 役割を担う | 協力 | 要保護児童虐待対策地域協議会 |

問 8 次の①～④の文は、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（平成 30 年 3 月内閣府・文部科学省・厚生労働省）の「第 3 章 健康及び安全 第 5 節 災害への備え」に示された内容の一部である。各文の正誤（○×）の組合せとして正しいものを、下の解答群ア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

- ① 幼保連携型認定こども園においては、学校保健安全法第 27 条に基づき、危険等発生時対処要領（危機管理マニュアル）を作成し、災害等の発生に備えなくてはならない。
- ② 災害発生の二次対応では、状況に応じて決められた避難場所に、どのような経路、タイミング、方法で避難を行うかを速やかに判断できるよう訓練を行うことが重要である。
- ③ 災害時は電話等がつかないことを想定し、あらかじめ複数の連絡手段を決め、保護者に知らせておく。
- ④ 各関係機関等とは、定期的に行う避難訓練への協力なども含め、地域の実態に応じて必要な連携や協力が得られるようにしておくことが必要である。

[解答群]

	①	②	③	④
ア	×	×	○	○
イ	○	×	○	×
ウ	○	○	×	×
エ	×	○	×	○

問 9 次の①～④の文は、『幼児理解に基づいた評価』(平成 31 年 3 月文部科学省)の「第 1 章 幼児理解に基づいた評価の意義 1. 幼児理解と評価の考え方」に示された「保育における評価」に関する内容である。各文の正誤(○×)の組合せとして正しいものを、下の解答群ア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

- ① 教師の関わり方は適切であったかを評価する。
- ② 環境の構成はふさわしいものであったかを評価する。
- ③ あらかじめ教師が設定した指導の具体的なねらいや内容は妥当なものであったかを評価する。
- ④ 「幼児にどういった力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉えて評価する。

[解答群]

	①	②	③	④
ア	○	○	○	○
イ	○	○	○	×
ウ	○	×	○	×
エ	×	○	×	○

問10 次の文章は、『幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開』(令和 3 年 2 月文部科学省)の「第 2 章 指導計画の作成の具体的な手順とポイント 1. 指導計画の作成の具体的な手順 (1) 教育課程に基づいた指導計画の作成」の一部である。文章中の空欄 ① ～ ③ に当てはまる語句の組合せとして正しいものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

指導計画の作成に当たっては、教育課程に沿った長期の指導計画、さらに、その長期の指導計画を基にした短期の指導計画を ① することが大切です。前週や前日の幼児の姿からのみ、ねらいや内容を設定し、環境の構成を考えるのではなく、幼児の ② に必要な体験を確保するためには、長期的な見通しをもちながら、目の前の幼児の姿に沿って指導すること、つまり、 ③ を併せもった指導が必要です。

- | | ① | ② | ③ |
|---|----|----|---------|
| ア | 立案 | 発達 | 計画性と適切さ |
| イ | 構想 | 学び | 計画性と適切さ |
| ウ | 構想 | 発達 | 計画性と柔軟性 |
| エ | 立案 | 学び | 計画性と柔軟性 |

問11 次の①～④は、『指導と評価に生かす記録』(令和3年10月文部科学省)の「はじめに 幼稚園教育の質向上を支える教師の専門性 2. 教師に求められる専門性」に示された「幼稚園教師に求められる資質能力」の一部である。①～④の正誤(○×)の組合せとして正しいものを、下の解答群ア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

- ① 幼児理解・総合的に保育を計画する力
- ② 得意分野の育成，教員集団の一員としての自覚
- ③ 小学校や保育所との連携を推進する力
- ④ 園長など管理職が発揮するリーダーシップ

[解答群]

	①	②	③	④
ア	×	×	○	○
イ	○	○	×	×
ウ	×	○	○	×
エ	○	×	×	○

問12 ロジャーズ(Rogers, C.R.)によるカウンセリングにおける三つの要素として適切でないものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 自己一致(純粋性)
- イ 共感的理解
- ウ 的確な指示
- エ 無条件の肯定的関心

問13 幼児は、慣れ親しんだ楽器を使って友達と一緒に合奏する中で、自分だけでは表現できない音の広がりを感じたり、友達とタイミングを合わせたりする心地よさや楽しさを味わうようになる。このような合奏の楽しさや面白さを幼児が感じられるように、教師は楽器の特質や扱い方などについて十分に知っておく必要がある。楽器の扱い方に関する記述として適切でないものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。なお、左利きの幼児については、記述中の左右を入れ替えること。

ア 輪の形の鈴は、軽く握り込むように持つ。はっきりとリズムを出す場合は、左手に持ち、手首の辺りを右手で叩く。

イ トライアングルは、ビーター(楽器を打つ棒)の重みを利用して落とすように打ち、素早く戻す。打つ位置によって音色が変わるので、曲に応じて打点を選択する。

ウ タンブリンは、枠の丸穴の部分に左手の親指を入れ、安定させる。右手は、指をそろえて打つのが基本で、強い音を出すときは手のひら全体で打つ。

エ カスタネットは、左手の人差し指又は中指の付け根までゴムの輪を通し、手のひらで軽く包み込むように持つ。このときゴムの結び目が下にくるようにする。

問14 幼児は、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつようになる。「オカダンゴムシ」、いわゆる「ダンゴムシ」は、動きが面白く、捕まえやすいため、親しみをもつ幼児が多い。「ダンゴムシ」に関する記述として適切でないものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 昆虫ではなく、エビやカニの仲間である。

イ 石や植木鉢の下などで見つかることが多い。

ウ 飼育する際、飼育ケースに腐葉土を敷いておけば、水分を補給する必要はない。

エ 主に落ち葉を食べる。

問15 情報機器の活用について「幼稚園教育要領」(平成 29 年文部科学省告示第 62 号)に示されている内容として正しいものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 小学校教育との接続が重要であることを踏まえ、幼稚園生活においても視聴覚教材やコンピュータなど情報機器を積極的に活用し、小学校教育との関連を考慮すること。
- イ 幼児期は直接的・間接的な体験が重要であることを踏まえ、視聴覚教材やコンピュータなど情報機器を活用し、幼稚園生活では得難い体験を積極的に取り入れるなど考慮すること。
- ウ 幼児期は直接的な体験が重要であることを踏まえ、視聴覚教材やコンピュータなど情報機器を活用し、幼稚園生活では得難い体験を家庭でも積極的に行うなど、家庭との連携を十分考慮すること。
- エ 幼児期は直接的な体験が重要であることを踏まえ、視聴覚教材やコンピュータなど情報機器を活用する際には、幼稚園生活では得難い体験を補完するなど、幼児の体験との関連を考慮すること。